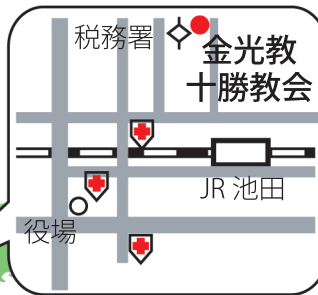
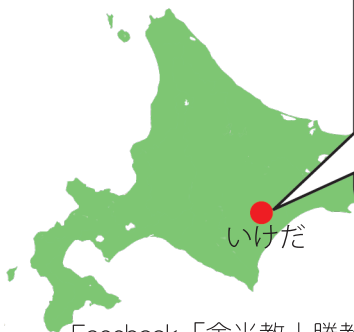


No.90, 2021, Apr.,

4月・天地金乃神大祭 号

TEL 015-572-2322
FAX 015-572-4213



金光教十勝教会
〒083-0001 池田町旭町 1-9

Facebook「金光教十勝教会」
<http://kontoka.webcrow.jp>

十勝教会 だより 90



Facebook



教会 HP (PC)



金光教公式 HP



令和三年も早くも四月を迎えました。今年もご本部広前を皮切りに全国の教会で天地金乃神様の御大祭が仕えられています。

信心するのは親に孝行するのと同じようなもの

金光教十勝教会

天つ日の輝き 大地の育み 時移るとも絶ゆることなく 年巡るとも尽くることなし 天地にいのちありて万のもの生かされ 天地に真理ありて万の事整う かくもみ姿大いなるみ働きを 天地金乃神と仰ぎまつり

と「神前拝詞」の冒頭に書かれているように、人間をはじめこの地球に生きる全ての生命を支え育む天地の働き、私たち一人ひとりのいのちの働き、それらを整えてくれる大いなるお働きを私たちは「天地金乃神様」と呼びびしています。

○

太陽や大地、天と地の間に降る雨など、どれも私たちが生きていくために無くてはならないものです。そしてそ

れらは人間の思い通りにはなりません。

私たちの体、例えば心臓や肺も自分の思い通りには動いてはくれません。朝、目が覚めた時、ちゃんと心臓が動いているか、息ができているか誰も保証はできません。

しかし、私たちは、人間が生きていける環境の中で（暑い寒いや、たまに大雨は降りますが…）、ちゃんと目が覚めて今日も生きていくことができます。その命を支え、整えてくれるのが天地金乃神様です。

○

私たちは天地無くして、生命の働き無くして生きていくことはできません。つまり私たちは神様無しでは生きていくことはできないのです。私たちを育んでくれるちょうどよい具合のお日様の陽射しや、心臓が勝手に動いたり止まったりしたら…一瞬たりとも神様のお働きが無ければ、私たちは生きていくことはできません。

でも、私たちは今、生きています。私たちが生きているということは、神様がお働き下さっているからに他なりません。私を、あなたを、生かそうとして神様は今もお働き下さっています。そして、神様は遙か大昔から、私たち人間（他の生命も）を支え生かして下さっているのです。

○

天地金乃神様は私たち人間（氏子）を見守るだけの神様ではなく、実際に私たち氏子を支え生かしてくれている神

様です。そして神様は今も私たちを生かし育んでくれています。にも関わらず、神様は私たち人間（氏子）に何も見返りを求めてはいません。

教祖様はその見返りを求めない「神様」とその神様の働きに生かされる私たち「氏子」の関係を、「親」と「子供」の間柄と捉えられ、「天地金乃神様は人間の親神である」、「信心は親孝行するのと同じようなもの」と説かれました。金光教の信心は天地金乃神様への親孝行ということです。

親へお礼をする、親が楽できるよう手助けをする、親の願いを叶える等々、親孝行には色々あります。これはもちろん自分のためでは無く親のためにすることです。

神様への孝行も同じ、自分の願いを叶えるために信心をするのではなく、私たちを生かしてくれる神様へお礼を込め、神様が助かる、神様の願いが叶うような信心をする、ということにならないでしょうか。

○

しかし、これでは、せっかく信心をしても、自分に何の得も無いように思えます。

でも決してそんなことはありません。子供が困っている時、親はただ黙って見ているだけでしょいか？

子供が困っていれば、何かと手を尽くすのが親です。ならば、氏子の親である神様は、氏子が難儀している姿を見れば、氏子を放っておくはずがありません。何かと手を尽

くして下さるはずで。子供の願いを聞き入れてくれるはずで。親子の関係とは、お互いに親を助け、子を助け、助け合い関係だからです。これこそ教祖様が仰る「神が助かり、氏子も立ちゆく」ということです。

○

ただし、そのためには、親と疎遠になってはいけません。助けてあげたくても、どこでどんな暮らしをしているのか分からないければ助けようがありません。親子が不仲ではイザという時、助けを聞き入れてもらえるでしょうか。同じように神様と疎遠になったり、神様と不仲になったりしては、いくら神様に頼んでも神様も助けようがありません。

そうならないためにも、親子が連絡を取り合い、互いを気遣うように、いつも神様のことも心を配り、神様に敬礼を言うことを心がけていきましょう。

金光教十勝教会設立百年記念祭

令和三年六月二〇日（日）午後一時三十分執行

会場 金光教十勝教会

記念祭典と教話

教話講師 金光教入田教会長・瀬戸信吉先生

午後四時終了予定 ※直会はお持ち帰りです

五代金光様ご退任と六代金光様のご就任

去る三月二十六日、五代金光様、金光平輝様（へいき）が教主をご退任され、翌三月二十七日、金光浩道様（ひろみち）が教主にご就任されました。

五代金光様は、四代金光様のあとを受けられて以来、三十年に渡ってお取次をお仕え下さいました。その長きに渡るご用にお礼申し、お取次をいただきながらも、勝手、ご無礼を重ねてきたことをお詫び申し上げ、六代金光様のもと、あらためて道の手続きをもってお取次をいただき、「神も助かり、氏子も立ち行く」おかげを受け現していききたいと思います。

関係教会大祭日程

春の大祭交流は中止になりました。

	春	秋
釧路	5月23日	10月24日
北見	5月3日	11月3日
帯広	5月25日	11月7日
網走	5月16日	10月17日
夕張	4月29日	11月3日
函館	5月13日	11月13日

★夕張教会布教90年記念祭
9月26日（日）
後日ご案内いたします。

★函館教会布教130年記念祭
9月13日（月）
後日ご案内いたします。

教会日誌 令和3年1月1日から3月31日まで

1月1日 元日祭執行。

1月3日 池田町、M家、新年感謝祭。

1月3日 幕別町、K家、五十日祭・合祀祭。

1月7日 士幌町、K家、新年感謝祭。

1月9日 陸別町、S家、旬日祭。

1月9日 薫別講社、年頭祭。

1月10日 帯広市、A家、K家、新年感謝祭。M家式年祭。

1月16日 滝上礼拝所、開所式併せて年頭祭。

1月22日 札幌市、T家、I社、A社、B社、合同新年感謝祭並交通安全祈願祭。

2月6日 陸別町、S家、五十日祭・合祀祭。

2月20日 やつなみ会総会、記念祭奉迎委員会。

2月20日 幕別町、K家、新年感謝祭、百日祭。

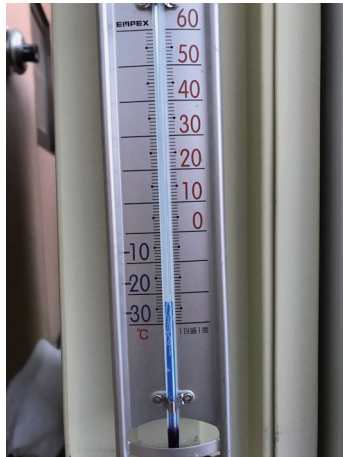


写真・令和3年元日祭

今年は全く雪のないお正月でした(上右)。恒例のお屠蘇(御神水)もコロナのことを考えてセルフサービスになりました(下左)。



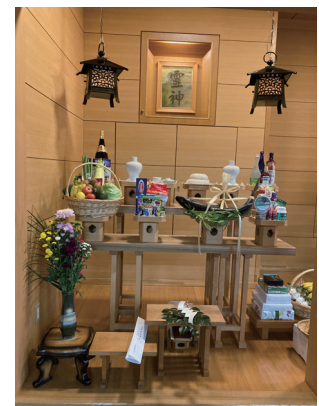
写真・一月十日の教会正門と朝の気温
 今年は「雪がない」と思っていたら、
 やっぱりド力雪が降りました。気温
 も一気に下がり、最低気温はマイナス
 二〇度越えです。



3月14日 札幌市、K家、式年祭。

3月18日 道東地区教会連合会総会、釧路教会。教会長、
 みよ子先生、総代二名出席。

3月20日 春季霊祭執行。



写真・春の霊祭

いつも春の霊祭が終わった後は、みんなでボタ餅をいただきますが、今年はコロナウイルス対策でお持ち帰りになりました。

十勝教会八月までの後の主な祭典行事の予定

- ・記念祭前大掃除 六月十三日（日）午前十時
- ・設立百年記念祭 六月二十日（日）午後一時三十分
- ・上半期感謝祭並記念祭終了奉告祭

六月二十七日（日）午後一時三十分

・布教功労者報徳祭並三代教会長五年祭・二代教会長婦人三十年祭

八月十五日（日）午後一時三十分

♪ 神 人 の 栄 光 ♪

一、天地は神のふところ
人はみな神のいとし子
かぎりなき神徳のなかに
生かされるわれ等うれしき

二、人の世にとわの光を
いとし子につきぬみかげを
誓わしし教祖の神に
救われるわれ等うれしき

○教会長挨拶
○滝上礼拝所代表挨拶

講話 御神伝奉読・講師紹介
講師 金光教釧路教会長
江郷繁樹 先生

・「神人の栄光」斉唱
一 祭員参向着席
一 拜 礼
一 神前拝詞奉唱
一 取次唱詞奉唱
一 祭主祭詞奏上
一 祭主玉串奉奠
一 天地書附奉体
一 参拝者代表玉串奉奠
一 神徳賛詞奉唱
一 拜 礼
一 祭員退下

天地金乃神大祭次第

神人あいはかけよの生活運動

願 い
御取次を願ひ頂き
神のおかけにめざめ
おれと喜びの生活を進め
神心となつて人を 祈り
助け 導き
神人の道をあらわそう



KONKOKYO
金光教

金光教十勝教会

食 前 訓 食 後 訓

食物はみな人の命のために
天地乃神のつくり
与え給うものぞ
何を食うにも飲むにも
ありがたく頂く心を忘れなよ

体の丈夫を願え
体をつくれ
何事も体が元なり